

## 2025年度「取締役会実効性評価」回答・分析結果について

当社は、取締役会の機能向上を図るための取り組みとして取締役会の実効性評価を実施し、その分析結果の概要をお知らせいたします。

### 1. 分析・評価方法

当社取締役会は、2025年度における取締役会の実効性を分析・評価するため、2026年4月に外部機関の助言を得ながら取締役会の構成員である全ての取締役・監査役に対し、アンケートを実施いたしました。

回答方法は、外部機関に直接回答することで回答者の匿名性を確保いたしました。外部機関からの集計結果を踏まえた上で、2024年6月の当社取締役会において、分析・議論・評価を行いました。

### 2. 評価項目

アンケート内容の大項目は以下の通りです。

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| (ア) 機関設計と取締役会の構成 | (エ) 経営陣の育成と承継計画      |
| (イ) 取締役会の役割・資質   | (オ) 取締役会の役割・責務遂行の有効性 |
| (ウ) 取締役会の運営      |                      |

### 3. 評価結果の概要

取締役・監査役が8割超の項目を「問題なくできている」と評価し、また取締役会の全般的有効性に関わる質問に比較的高い評価がなされたことから、**当社の取締役会の実効性は概ね確保されているとの評価結果が得られました。**

### 4. 課題の分析と対応

一方で、今回の評価結果から、以下について改善の余地があるとの指摘がありました。抽出された課題に対して、今後対応を検討してまいります。

#### ① 経営陣の育成と後継者計画

- 社長の後継者要件や執行役員に求める人材要件の審議について、課題感が示されました。当社が求める取締役・執行役員候補に合致した人材選定を引き続き進め、人材要件の議論を深化する場を提供することを検討いたします。また、経営陣の多様性について、女性取締役・執行役員の更なる登用や、社内財務担当役員の選任等も含めて検討してまいります。

#### ② 取締役会及び経営会議の運営、機関設計の見直し

- 取締役会及び経営会議を併設開催することは議論の内容を深く把握できる点において一定の評価を頂いていた一方、取締役会が業務執行の面に偏重することや議論の質の低下の懸念が指摘されました。取締役会及び経営会議を別日開催とすることで、コーポレートガバナンス・コードに則り「監督と執行の分離」を推進し、取締役会をより企業価値向上に向けた建設的な議論に時間を振り向けることを検討いたします。
- 取締役会資料の提供遅れが指摘されました。資料作成の早期化に加え経営会議の議論内容及び取締役会に上程予定の案件をより丁寧に事前説明できるよう運用を改善致します。
- プライム市場では監査等委員会設置会社が増加している中、当社が監査役会設置会社を継続することの説明責任についてご指摘がありました。当社ガバナンス体制の在り方等を検討し、共有の場を設けます。

#### ③ 経営計画・事業ポートフォリオの議論

- 中期経営計画及び事業ポートフォリオの議論が不足しているのご指摘を頂きました。取締役会事前説明会の場などを活用し、これらを審議・議論いただく場を提供するとともに、定期的なレビューを実施いたします。

#### ④投資家の声の反映

- ・投資家やアナリストの具体的な意見・要望をより詳細に把握し、審議に反映させたいという意向が示されています。具体的な意見・要望を事務局が把握し、個別の審議に反映いたします。

上記の点に留意し、取締役会の実効性評価を更に向上させ、コーポレート・ガバナンスのより一層の強化を図ってまいります。

#### 5. 前回評価結果を踏まえた取組み

2025年4月実施の取締役会実効性評価により課題として認識した3項目の課題である、「機関設計の選択と有効性」「取締役会の議事進行、取締役への情報提供」「投資家の声の反映」については、改めて課題として認識し、検討を進めてまいります。

以 上